

うるわしく しなやかに



1.雄鹿役の中学生 緊張しながら面を被る 2舞手の小学生と中学生 3.奉納された鹿ん舞の面 4.勇ましく舞う姿に見とれる 5.日頃の練習の成果を披露 6.小中学生により奉納された「ヒーヤイ」 7.お囃子衆が舞をもり立てる 8.狂言「新曾我」威風堂々としたたたずまい



8月3日、「ヒーヤイ」の練習の様子をテレビ会議システムでJR職員に届ける

施策への反映などを実施しています。新型コロナウイルスの感染拡大により研修生の来町が難しくなった今年度は、千葉県の研修会場と本町をリモート形式でつないで実施しました。研修生は8月2日から1週間にわたり、町から提示された2つの地域課題についてタブレット端末を活用して関係者取材し、住民の想いに添った解決策を模索しました。テーマのひとつである「徳山地区における伝統芸能の後継者の確保及び育成」についてまとめたグループからは、練習用動画の制作や関係者の負担軽減など、外部からの視点を取り入れた提言がされました。上野さんは「伝統芸能の意義を理解した提言をいただいた。祭りの改革は地域住民の理解が必要不可欠だが、解決案の中には目を見張るおもしろいアイデアもあった」と話し、今後に期待を込めました。

● 軽やかに舞い踊る

8月15日、徳山区の浅間神社で徳山古典芸能保存会と町内小中学生による、国指定重要無形民俗文化財の「徳山の盆踊」が奉納されました。

当日執り行われた神事後、お囃子の小気味のよい調子に合わせて、子供たちが「ヒーヤイ」と「鹿ん舞」を披露しました。今年は、徳山区と藤川区の小学校6年生から中学3年生が参加。雨上がりのうだるような暑さの中、しなやかに麗しく舞い踊りました。

例年、徳山各地で披露されていた「鹿ん舞」は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、今年中止となりました。それでも、浅間神社には、たくさんの方が子供たちの雄姿を見届けようと集まり、勇ましく踊る子供たちに拍手を送っていました。

● 伝統芸能を継承していくために

毎年、浅間神社で奉納される「徳山の盆踊」ですが、近年、少子化の影響を受け、舞手不足が深刻化しています。徳山古典芸能保存会事務長の上野信吾さんは「伝統文化の継承者が減って、いつか消滅してしまうのでは」と話し、先人から受け継いできた伝統文化の継承に、危機感をにじませました。

町では平成30年度から、J・R東日本による社内研修を受け入れ、研修テーマとなる地域課題の提示や提言内容の